シリーズ ふるさと再発見

ふるさと岩室は、遠い昔からさまざまな歴史を生み出してきました。そのふるさとの歴史を一つ一つ紹介していくページです。

その28

百年の大計 樋曽山隧道の完成

■今月の「ふるさと再発見」シリーズ第二十八回目の今回は、本村西部を流れる矢川とその流域に住む人たちの、水との闘いを解決するため掘削された樋曽山隧道(昭和八年完成)と新樋曽山隧道(昭和四十年完成)についてご紹介しましょう。

岩室村西部を流れる矢川は、その源を弥彦山脈に発し、国上、岩室、峰岡など約五〇〇町歩の悪水を集め、巻町北端において西川に合流しています。しかし西川は、西蒲原地域の用排水路を兼ねていたため、常時水位が高く、ことある毎に矢川に逆流していました。その上、弥彦、角田山系からの出水により、矢川末端部の耕地の排水は悪く、常に湛水し、洪水時には大きな被害をうけてきました。そのため、この地域の人たちは矢川と西川との連絡を絶ち、矢川の悪水を直接日本海に放流しようと考え、江戸時代から努力を重ねてきました。

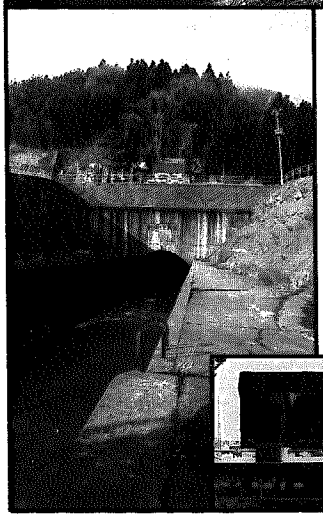
そして、昭和期に入りやっと樋曽山隧道案が具体化し、昭和七年に工事計画案が県会を通過、翌八年から県営の樋曽山隧道掘削事業がスタートしました。工事は巻町の水倉組が請負い、秋に着工、樋曽と角海浜の両端から掘り進められました。この工事は、隧道入口附近の水腐地の地すべりのため大変難航し、それは労務者や附近の住民から「化け物工事」「化け物丁場」などと呼ばれたほどの難工事だったといわれています。そして、昭和十一年頃から一時通水が行われ、矢川改修等の付帯工事とともに昭和十四年に工事が完成しました。ここに、西川西部農民が計画後、百年経ってようやく、矢川悪水は直接日本海に排除されることになりました。

こうして、この樋曽山隧道の完成により、矢山の常習湛水地域は解消され、この地域の農業生産に大きく貢献しました。

しかし、この隧道は工事費の制約などのため、断面が縮少され排水能力は不充分で、それに、この隧道に導入する各排水路も完備されていなかったため、西川西部全域の排水問題がすべて解決したわけではありませんでした。特に昭和二十二年に隧道が陥落し、大きな被害をだし、その翌年から復旧工事が行われましたが、排水は完全とはならず、そのため隧道増設の必要性が大きくクローズアップされてきました。

そして、昭和二十六年「西蒲原土地改良区」が結成されると矢川排水関係者の発言力も大きくなり、樋曽山隧道改修運動を猛然と展開。それに地元でも昭和二十九年に「樋曽隧道促進協議会」を結成し実現運動を展開した結果、新隧道を旧隧道と並行して掘削する方針がほぼ確定しました。ところが、計画は決定したものの、掘削位置について流域関係者間で意見が分かれ、幾度となく協議などが行われた結果、現在の位置に決定し、昭和三十六年から近代技術の粋を結集した工法で工事が行われ、昭和四十年に完成しました。この新隧道の完成により、矢川流域の洪水を直接日本海に放流、沿岸耕地の湛水被害も一挙に解消することができることとなり、これでやっと矢川流域農民の水との闘いに終止符がうたれることになりました。

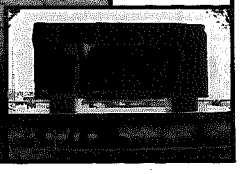
(今回ご紹介した内容は、「岩室村史」から抜すいして掲載したものです)



▲今も放流を続ける樋曽山隧道(昭和14年完成・写真上)

◀昭和40年に完成した新樋曽山隧道(写真左)

▼新樋曽山隧道に建つ竣工記念碑(写真下)



村企業課

宿直代行員募集中

岩室村企業課では、浄水場内の宿直代行員を募集しています―。

■募集人員…男性一名 **■職務内容**…浄水場内の機械監視及び場内清掃 **■勤務条件**…夜間勤務及び土日、祝祭日の日直 **■年令**…六十歳未満 **■申込締切**…二月末日

※申込み・問合せは、**岩室村企業課**(☎82―三一五〇)までどうぞ。

ご協力ください

"水道メーター検針"

毎年この時期になると、積雪のため水道のメーターの検針ができなくなることがあります。そこでこうした場合の水道使用料を過去三ケ月間の使用水量で推計して徴収させていただきますので、ご協力をお願いします。差額については、三月の検針時に調整させていただきます。

また、この時期に多くなるのが漏水です。漏水箇所は、雪に埋もれた所や床下などの場合が多く、気がつかない場合もしばしばあります。そのままにしておきますと、その漏れ分も水道料に加算されますので、もし漏水を発見したら、すぐに水道メーター内の止水栓を閉め、村公認指定水道工事店から修理してもらってください。

水道についてのお問合せは、**岩室村企業課**(☎82―三一五〇)へ。

■広報いわむろ 第三八二号 平成六年(一九九四年)二月一日発行(毎月一回一日発行) ■発行 岩室村役場 ■編集 総務課 ■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八六〇(〒九五三―〇一) ■☎〇二五六―八二―四一一一(代) ■印刷 北洋印刷㈱